様式2（施策）

「施策」総括票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	
施策	①科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成		368頁
対応する主な課題	○本県は科学技術を中心とした知的産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。 ○芸術文化やスポーツの分野における国内外での県出身者の活躍は、県民に夢や感動を与え、地元の誇りにつながっている。しかし、このような優れた人材を集中的に育成し、輩出していくための指導体制などの環境が不十分であることから、教育機関と関係団体等が連携した一貫した指導体制の構築等、将来性ある資質を最大限に引き出す環境を構築することが必要である。		
関係部等	企画部、文化観光スポーツ部、教育庁		

Ⅰ　主な取組の推進状況　（Plan・Do）

（単位：千円）

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
○理数教育の充実				
1	沖縄科学技術向上事業	3,059	やや遅れ	○「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」を開催したが、沖縄科学グランプリ参加校数は計画値20校に対し、12校にとどまったためやや遅れとなった。（1） ○沖縄の科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、研究機関や企業等による出前講座等を20回開催した。（3） ○小学校27校に理科支援員を配置し、小学校5、6年生の理科授業における観察・実験等の充実を図った。（4） ○理系高校の生徒25人をカナダに派遣し、短期研修プログラムを行った。（6）
2	「科学の甲子園全国大会」への派遣	3,059	順調	
3	沖縄サイエンスキャラバン構築事業	82,384	順調	
4	理科支援員等配置事業	13,441	順調	
5	スーパーサイエンスハイスクールの指定	―	順調	
6	海外サイエンス体験短期研修 （グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）	12,106	順調	

様式2（施策）

○競技力向上対策				
7	トップレベルの選手育成事業（一貫指導システムの整備）	1,500	順調	○国民体育大会へ316人の選手を派遣した。（8） ○公益財団法人沖縄県体育協会に補助を行なうことにより、国民体育大会の派遣業務を始め、競技力向上対策、スポーツ少年団育成の開催等を実施した。（9） ○中学校体育連盟、高等学校体育連盟、特別支援学校体育連盟に補助金を交付し、各種大会の円滑な推進と当該団体の充実強化を図った。（10）
8	国民体育大会等派遣事業	69,289	順調	
9	沖縄県体育協会活動費補助	42,129	順調	
10	学校体育団体活動費補助	39,647	順調	
11	競技力向上対策事業費	36,833	順調	
○文化芸術人材の育成				
12	青少年文化活動事業費	9,731	順調	○県中学校総合文化連盟、県高等学校文化連盟への補助を通して、中高生の文化活動を支援した。（12） ○国、県指定無形文化財（芸能、工芸）の伝承者を養成するための実技研修等を、1581人に対し実施した。（13）
13	伝承者養成・技術錬磨	4,085	順調	

Ⅱ　成果指標の達成状況　（Do）

（1）成果指標

	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	理系大学への進学率	13.8% （23年度）	13.0% （24年度）	20%	△0.8ポイント	20% （23年度）
	状況説明	理系大学への進学率は基準値と比較して、0.8ポイントの減となっている。「科学の甲子園全国大会」への派遣等の取組を推進していくことで、生徒の科学に対する関心を高め、理系大学への進学率アップにつなげる。				
2	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	県出身日本代表スポーツ選手数 （全ての国際大会）	23名 （24年）	23名 （24年）	28名	－	－
	状況説明	平成22年、23年と比較して増加傾向にあるため、引き続き、トップレベルの選手育成事業や国民体育大会等派遣事業等を実施することで、優れた人材を集中的に育成し、輩出していくための指導体制づくりを行う。				

様式2（施策）

	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
3	全国高等学校体育大会入賞者及び入賞件数	団体　6団体 個人　23人 （20年）	8団体 18人 （24年）	6団体 24人	2団体 △5人	―
	状況説明	平成24年度は高等学校体育連盟等に補助金を交付し、各種大会の円滑な推進を図った。団体数については目標値を上回る6団体だったため、今後は個人数の増加に向け、引き続き取組の推進を図る。				
4	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	高文祭等全国・九州大会上位入賞部門数、入賞件数	中：12部門、53件 高：16部門、52件 （23年度）	中：13部門、55件 高：16部門、36件 （24年度）	中：13部門、58件 高：17部門、57件	中：1部門、2件 高：△16件	―
	状況説明	平成24年度は県中学校総合文化連盟・県高等学校文化連盟への補助を通して、中高校生の文化活動を支援し、文化活動の場を確保することで、生徒の意欲向上や各分野の技術向上につながった。中学生の入賞部門数は目標値の13部門を達成したため、今後は中高生の入賞件数、高校生の入賞部門数の増加に向け、引き続き取組の推進を図る。				

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
スーパーサイエンススクール指定校数	0校 （23年）	0校 （24年）	1校 （25年）	↗	201校 （25年）
国民体育大会順位	45位 （22年）	39位 （23年）	42位 （24年）	↘	―
国、県指定無形文化財伝承者養成人数	991人 （22年）	1,519人 （23年）	1,581人 （24年）	↗	―

様式２（施策）

Ⅲ　内部要因の分析　（Check）

○理数教育の充実
・「科学の甲子園全国大会」の県予選である「沖縄科学グランプリ」参加校数は、計画値20校に対し12校にとどまった。限られた学校だけの参加にならないよう、参加校の増加に向けての工夫が必要である。
・理科支援員等配置事業については平成24年度で事業が終了したが、理科支援員配置事業実践事例報告書を活用した授業改善の実践事例等の検証・普及に取り組む必要がある。

○競技力向上対策
・これまでの一貫指導システムは輪番制を採用しているが、各競技団体の取り組みに対し、定着が図れないため状況や、一貫指導体制が整っていない状況下で選考しても、その効果が得られないため、今後は選考方法についても検証を行なう必要がある。
・国民体育大会において、成年種別競技の得点が低く、少年種別競技で活躍した選手をどのように成年種別競技につなげていくか等、成年種別競技の強化を図る必要がある。

○文化芸術人材の育成
・中・高等学校総合文化祭については、文化祭の活発化を図るため、参加人数の増加を図る必要がある。

Ⅳ　外部環境の分析　（Check）

○理数教育の充実
・社会・経済発展の原動力である科学技術の振興に向け、科学技術の土台である理数教育の充実が求められている。
・学校教育現場以外の科学技術に触れる機会の場として、学童保育施設の現状調査を行った結果、施設数や学童の放課後を過ごす環境の違いなど地域ごとに課題があることが判明した。

○競技力向上対策
・運動習慣の二極化及び体力の低下が全国的な課題であり、運動習慣の二極化傾向等が運動部加入状況に反映されており、過去３年間の運動部加入状況の推移は、やや増加しているがほぼ横ばい傾向となっている。

様式２（施策）

Ⅴ　施策の推進戦略案　（Action）

○理数教育の充実

・「沖縄科学グランプリ」参加校数の増加を図るため、理科教育に関する研究会等への周知を行う他、各学校の理科科目の担当者に直接呼びかけていく。

・全国学力・学習状況調査等で明らかとなった課題に対して理科支援員を活用する方法等、理科教育の現状と課題を踏まえた理科支援員の活用方法を検証し、公表する。

・科学に関する夢と期待を育み、理科、算数・数学への興味・関心を高めることができるよう、県内外の科学技術系コンテストへの参加や科学の甲子園への出場など、児童生徒が学習によって得た科学的知識や課外活動等で深めた科学研究を発表し、活躍できる機会を確保する。

・学童保育施設だけでなく、地域の公民館や図書館等を活用した出前講座を行い、子どもたちが平等に科学技術に触れることのできる機会の場を提供する。

○競技力向上対策

・今後も一貫指導システムの構築を目指し、継続した選手の育成・強化を図るため、今後は輪番制だけでなく選考等も含めて検証していく。

・沖縄県体育協会と改善策に向けた定期的な会議等を開催し、成年種別競技の強化等、具体的な対策を検討する。

・学校における運動部活動の活性化・適正化及び児童生徒の体力や競技力を向上させるため、中学校・高等学校の運動部活動に外部指導者を活用するとともに、一貫指導体制について、県中学校体育連盟、県高等学校体育連盟の研修会や指導力向上の研修会を行うなど学校体育関係団体との連携に努める。

○文化芸術人材の育成

・県立芸術大学と協力して郷土芸能ソロコンテストを開催する等、文化祭の参加人数の増に向けた取組の促進を県中学校総合文化連盟、県高等学校文化連盟へ働きかける。